

保護者のみなさまへ

コレだけは  
知っておきたい!  
教育NEWS

イマ  
どき

2022年度から  
変わる! 高校教育

### 高校の教科はこんなに変わる!

「探究」が付いた  
科目が7つに!

来年度から、高校の科目では、「探究」という言葉が入った科目が7つ設けられます。

- 古典探究 (国語)
- 世界史探究
- 日本史探究
- 地理探究
- 理数探究基礎
- 理数探究
- 総合的な探究の時間

学びの土台となる「知識・技能」を身につけたうえで、自ら課題を設定し、情報やデータ収集のプロセスを経ながら解決を図っていく能力をはぐくむ「探究」型の学習を、主体的に行っていくことが求められるのです。

全員が必修として  
近現代史と地理を学ぶ!

すべての高校生が学ぶ必修科目として、以下の科目が設けられました。

- 現代の国語
- 言語文化
- 歴史総合
- 地理総合
- 公共
- 英語コミュニケーション I
- 情報 I
- 総合的な探究の時間

※「家庭基礎」と「家庭総合」は選択必修。

「歴史総合」では、日本と世界の近現代史を、「地理総合」では近現代の日本と世界の地理を、それぞれ学びます。また、来年度から18歳成人となることなどから、主権者教育として「公共」の科目が設けられました。

## 自ら問いを立て解決する「探究」がメインに!

いよいよ来年度から、高校で新学習指導要領が実施されます。新学習指導要領は、小中高を通じて、未知の未来を切り拓いていく資質・能力をはぐくむことを掲げていますが、高校での教育はその総仕上げ。新たな必修科目や科目再編など、変わる高校教育について榎本竜二先生にお聞きしました。

### 科目再編のキーワードは「論理的思考」と「探究」

新学習指導要領では小中高に一貫した教育のねらいとして「生きる力」が明示されましたが、その具体策のひとつが「論理的思考をはぐくむ」とです。来年度からの高校教育ではこのねらいに沿った科目再編がなされています。

「論理的思考」というと、小学校で導入された「プログラミング的思考」や「プログラミング教育」のインパクトが強く、言葉が一人歩きして誤解を招きかねないのですが、そもそも「論理的思考」は小中高を貫いて育成すべきものであり、その基本となる「プログラミング的思考」を小学校で根づかせる、という文脈で述べられています。

また、高校の新学習指導要領の大きな変更点として、「探究」を重点に置いたことが挙げられます。「総合」という科目は必修、「探究」という科目は選択だと思っていたかとい思います。主な教科・科目の変更点を見ていきましょう。

**国語** ……文章を論理的に読んだり書いたりする実践的な力を身につける

今までの国語は、どちらかというと文学中心で、物語の構造を分析・読解するものでした。しかし、新指導要領では「論理国語」と「文学国語」という選択科目を設け、論理と文学を切り離しました。「論理国語」は、将来、契約書を交わしたり、マニュアルを作成したりするときに役立つ、論理的な表現力や批判的な読解力をはぐくむのが目的です。

**地理歴史** ……今の私たちの生活に直結する日本と世界の近現代を、地理的な観点、歴史的な観点の2つから読み解く

1994年から、グローバル化に備え、世界史(世界史A・世界史Bから選択)が必修になりましたが、古代から順に学習していくと時間が足りず、近現代史は教科書を読んでおしまい、というケースも多かった。大学入試での出題も稀でしたが、日本史は必修ではなかったのです。

しかし、今起きている事象を理解するには、近現代史をさかのぼっていく思考が欠かせません。ガザ地区が爆撃を受けたというニュースを見ても、近現代史の知識がなければ、どんな歴史的・文化的背景で起きているのか理解できないと思います。そこで、「歴史総合」を必修にし、最初から日本と世界の近現代史を学ぶことになりました。「歴史総合」を学んで、卑弥呼や四大文明などともつと昔のことを勉強したかったら、選択科目の「日本史探究」や「世界史探究」で深めていく、ということです。

で、卑弥呼や四大文明などともつと昔のことを勉強したかったら、選択科目の「日本史探究」や「世界史探究」で深めていく、ということです。

お話しくださったのは……



聖心女子大学  
非常勤講師  
榎本竜二先生

システムエンジニアから東京都立高校教諭に。都内初の単位制高校である新宿山吹高校で、インターネットの教育活用「100校プロジェクト」を推進。その後、東京都教職員研修センター専門教育主事として情報教育研修を担当し、情報倫理の授業・教材を作り上げる。都立商業高校教諭、東京女子体育大学准教授を経て、現在、聖心女子大学・非常勤講師。「全国中学校 Web コンテスト」の最終審査委員を務めるなど、広く情報教育を推進している。



また、地理の学習というと、保護者のみなさんは「〇〇国は主要産業は〇〇、気候は〇〇…」といったイメージをお持ちではないでしょうか。

でも、現実にある国や地域を理解するには、世界地図の中で位置関係や歴史と切り離せません。そこで、必修の「地理総合」では、「歴史総合」で学ぶ近代史と関連させて地理の内容を学習します。論理的に2つの科目を結び付け、多面的・多角的に理解を深めるわけです。「地理総合」と「歴史総合」は、高1で両方学ぶか、高1、高2と積み上げていく形になるでしょう。

**総合的な探究の時間**……自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」に名称が変わります。各教科で「知識・技能」を論理的に結び付けたら、「総合的な探究の時間」では、教科・科目の垣根を超えて「知識・技能」を活用し、より深い「思考・判断・表現」へとつなげていくのです。

たとえば、イスラエルとパレスチナの問題についてもっと深く学ぶには、地理や歴史に加え政治の知識も必要です。となると、通常の授業時間だけでは足りない。そうした教科書の枠を超えた学習をするとき「総合的な探究の時間」を使います。

**英語**……「やり取り、発表、書く」を中心に、英語による発信力を強化する

必修科目は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「やり取り」「話すこと」「発表」「書くこと」の5領域を総合的に学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」です。「英語コミュニケーションⅡ、Ⅲ」「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」は選択科目です。

「英語コミュニケーション」「論理・表現」ともに、双方向コミュニケーションを重視。ディベートやスピーチなど、自分の意見を発表したり、他人の考えを聞いたりする場面が増えます。

単に会話できるだけではなく、中身も問われます。

たとえば、外国の高校生とオンラインで交流することが増えていますが、そのとき、伝統的な日本の手遊び

について質問されたとします。折り紙、あやとり、コマ回しなど、歴史をさかのぼって日本の文化を知っていなければ、会話が続かないでしょう。このような、英語でコミュニケーションする下準備に「総合的な探究の時間」を使うわけです。

将来的には、ビジネスとして、英語でやり取りすることがあるかもしれません。相手の文化や歴史などの背景を知ったうえで、商談を有利に進める必要があります。そこにつながる英語のコミュニケーション力を磨いていくわけです。

**公共**……社会人として必要な知識や現状を理解したうえで、実際の社会の課題と向き合い、解決する力を身につける

「現代社会」の廃止に伴い、新たな必修科目として「公共」が設けられました。「現代社会」「倫理」「政治・経済」を一つにまとめたものです。

この背景には、2022年から成人年齢が18歳に引き下げられること、2016年から18歳から選挙権を持つようになったことが挙げられます。教科書には模擬選挙が体験できるページが設けられるなど、高校生が政治や社会を自分事としてとらえる主権者教育もひとつの柱となっています。

\* \* \*

このように、来年度からの高校教育では、各教科・科目でバラバラにやっていたことを「論理的」に関連付け、「探究」する学びが中心となります。高校で充実した学びができるよう、小学校・中学校の間に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を身につけ、主体的に学ぶ態度を養っておくことが、これまで以上に大切です。



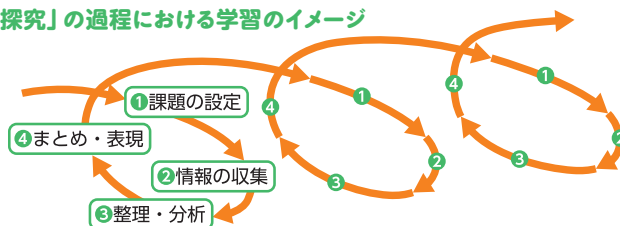
## 2022年度から変わる高校の科目

教科等	現行	2022年度～	必修
国語	国語総合	現代の国語	○
	国語表現	言語文化	○
	現代文A	論理国語	
	現代文B	文学国語	
	古典A	国語表現	
	古典B	古典探究	
	地理歴史	世界史A	歴史総合
世界史B	世界史探究		
日本史A	日本史探究		
日本史B	地理A	地理総合	○
地理A	地理B	地理探究	
公民	現代社会	公共	○
倫理	倫理		
政治・経済	政治・経済		
理科	理科課題探究	理数	
理数		理数探究基礎	
数学	数学活用	理数探究	

\* □ は新規・再編された科目

教科等	現行	2022年度～	必修
外国語	コミュニケーション英語基礎	英語コミュニケーションⅠ	○
	コミュニケーション英語Ⅰ	英語コミュニケーションⅡ	
	コミュニケーション英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅢ	
	コミュニケーション英語Ⅲ	論理・表現Ⅰ	
	英語表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ	
英語表現Ⅱ	論理・表現Ⅲ		
英語会話	情報		
情報	社会と情報	情報Ⅰ	○
	情報の科学	情報Ⅱ	
総合的な学習の時間		総合的な探究の時間	○

### 「探究」の過程における学習のイメージ



日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する → 自らの考えや課題が新たに更新され、「探究」の過程が繰り返される